



chikap ノート

2023 December



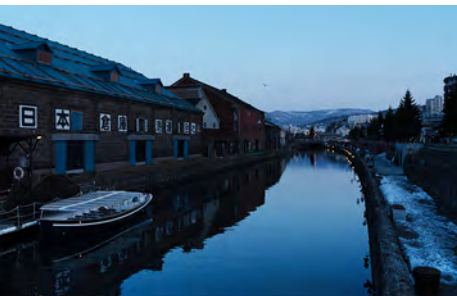
早いものでchikapをオープンしてから12月で10周年を迎えます。振り返ってみると、はじめの頃はわけわからず出来たままのチーズを出していたなど、恥ずかしくて穴があつたら入りたい気持ちでいっぱいです…。工房を始めたばかりの頃、目標のハードチーズを作れるようになるまで10年計画だね、と話していましたが、期せずしてなんと10年、今年のシマフクロウはこれだ！というホールがいくつかありました。コツコツと試行錯誤を重ね、ここまでの味を出せるようになったのは本当にすごいことだと思います。製造担当の夫は「師匠に恵まれたな～」とぼそりとつぶやいていました。

10年間変わらず支えてくださったみなさまには、本当に感謝の気持ちでいっぱいです。気づけばチーズに携わっている時間が前職よりも長くなっていて、そのこともまた感慨深いものです。



今年の夏は根室もとても暑い日が続きました。私たちが移住した12年前の根室は、25度を超える日が数えるほどしかなく、一年中長袖で過ごしていました。あまりに出番のない半袖の服をたくさんサイクルに出したほどです。そんな根室も今年の7月後半は5日連続で30度超え。例年お盆を過ぎると肌寒くなってくるはずの8月も、30度超えのジメジメとした暑さが続きました。暑さのせいで牛も食欲を無くし、牛乳は水っぽく、チーズが作りづらい日もありました。地球沸騰化と言われる時代になりましたが、年々変わっていく気候を目の当たりにして、この先の環境変化に不安を感じざるを得ません。再生可能エネルギーへの期待も高まりますが、かと言って、津波の心配のある海岸線にずらりと並ぶメガソーラーや、丸タメガソーラーで覆われてしまった山、大量の風力発電など、根室周辺でも美しかった景観が次々に失われていくのを目にし、とても悲しくなるのも現実です。電気や石油に頼らざるを得ない私たちも、持続可能なエネルギー、誰もがしあわせなエネルギーのあり方について、考える日々です。

10月は、歌市内市(私たちの工房から西へ370km)でワイン作りをしている友人の畑へブドウ収穫のお手伝いに行ってきました。着いた瞬間から帰りたいとぐずる娘…。先行き不安な中作業に入りましたが、初体験のブドウ収穫は想像していた以上に丁寧で繊細な作業を必要とされるものでした。鳥や虫に食べられていたり、病気が出ている粒はその周辺の粒ごと大胆に取り除く、粒を取り除く過程で果汁が付いたらその部分も取り除くetc…「もったいないと思うかもしれないけど、いいか悪いか迷ったら捨てください。みなさんのもったいないという気持ちが僕たちのワインをまずくします」と友人。責任重大！と、黙々と作業をする私に愛想を尽かした娘は、いつの間にかその場に居合わせた子どもたちとすっかり打ち解け畑中を駆け回っていました。最後は帰りたくない泣き出す様子を見て、ああ、連れてきて良かったなあと、暖かな気持ちになりました。お天気にも恵まれ、鳥や虫の声が心地よいブドウ畑の中に子どもたちの楽しそうな声も重なり、なんとも言えない穏やかで平和な時間を過ごすことができ、とてもいい体験となりました。



3月に私たちのチーズを使っていた小樽の「バリロット」さんを訪問。プロの手にかかるとチーズの幅がこんなに広がるんだ！と感動の連続でした。アカゲラクミン+ハンバーグ、シマエナガ+ニョッキなど、チーズの絶妙な使い方に何度も声が漏れました。カジュアルな雰囲気の中で出てくる本格的なお料理と、合わせてくれる地元のワインのペアリングも最高でした。小樽方面へ行かれる方には、ぜひ訪れて欲しいお店です。



chikapの森

昨年植えた苗木は、害獣対策用の保護カバーを被せたことにより、鹿の被害もなく無事に冬を越すことができました。春から秋にかけても、風の影響を受けにくいおかげか、ぬくぬく、すくすくと育っています。特に成長の早いシラカバはぐんぐんと背を伸ばし、続々と保護カバーから顔を出しました。艶々とした葉っぱがとてもきれいで、つつい芝刈りの手を止めてしまうほどでした。

chikapの食べ方 チーズと合わせて食べるオススメの食材をご紹介します！



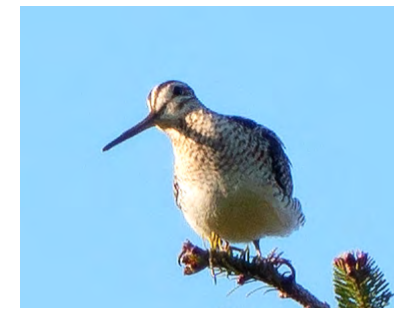
ハニーカカオ

上質な富良野産のアカシア蜂蜜に、じっくりと焙煎されたカカオ豆がたっぷり入った「ハニーカカオ」。カカオ豆の香ばしさと蜂蜜のやさしい甘みが、チーズとの相性バッチリ！まずはシマフクロウ、シマエナガと合わせてみてください。アカゲラのチーズトーストに合わせても美味しいです。パンやヨーグルトとの相性も◎ 作っているのは、上富良野のビントウバー専門店「Wolves tracks small batch chocolate(ウルブズトラックス スモールバッチ チョコレート)」さん。今回の年末セットにはハニーカカオ入りのセットもありますので、ぜひお試しください！



野鳥観察日記

「ジッ、ジッ、ジッ、ズビャーク、ズビャーク、ゴゴゴゴゴ……」雪が解けて冬の寒さが緩む頃、上空からこの音が聞こえてくると、「今年も帰ってきた！」ととても嬉しくなります。ディスプレイ・フライトと呼ばれる求愛行動で、賑やかに春を知らせてくれる渡り鳥のオオジシギ、なんとオーストラリアとこの根室を行ったり来たりする健脚(健羽?)の持ち主です。



オオジシギ Latham's snipe

file9

チドリ目シギ科

春は4月中旬より渡来し、秋は9月上旬までにほとんどの個体が渡去する。オーストラリア東南部で越冬。国内では北海道が主要な繁殖地。(北海道野鳥図鑑,2003,p336-337)

子どもの成長日記

4月から保育所通いが始まり、普段の遊びから運動会に発表会と、とても楽しい日々を過ごしています。地元のお祭りも再開され、盆踊りで仮装をしたり、獅子舞の行列に参加したりと、賑やかで刺激的な夏も体験しました。どんどんと自己主張も強くなり、どこまで要求に応えるべきなのか、わがままとは何かなど、親として都度答えの出ない問いと向き合う毎日です。

フレシマ湿原

工房から南に車を20分ほど走らせた太平洋側にあるフレシマ湿原は、タンチョウの繁殖地として野鳥保護区に指定されているため、人の手がほとんど入ることなく、素晴らしい自然と景観が残されています。この景色が移住のきっかけでもあった私たちにとっては、まさにこの場所が根室の原風景となりました。「何もないよ」とよく言われる根室ですが、観光地として整備が進んでいないからこそ残る自然がたくさんあり、この景色が好きで移住してきた私たちにとっては、いつまでも残したい場所の一つでもあります。車でアクセス可能ですので、根室に来る際はぜひ訪れてみてください。別当賀フットパスで実際に歩いてみるのもおすすめです。(表紙の写真もフレシマ湿原です)

